

# かつの微生物農法研究会便り

H19.7.1 Vol.7



早や夏の様相。緑の大地に澄んだ青空、真っ白な雲の競演。

## 早い時期から暑い日が続いています。

今年の春先から発生しているラニーニャ現象の影響なのか、6月は連日30 近い暑い日が続きました。この気温というのは、当地で言えばひと昔前の真夏の気温だったはずですが……。これも地球温暖化のせいでしょうか。稲の生育も若干早まっているようですが、それにも増して雑草の生長が早く、生産者の皆さんは除草にとっても苦慮しています。また、これだけ気温が高い日が続いたということは、昆虫たちの活動も活発になっているということは想像に難くありません。これからの害虫対策も、今まで以上に気をつけていかなければ。ラニーニャ現象は今年の秋口までおさまりそうに無いとのこと、ならば夏はぐっと暑くなるかも知れません。お天道様には敵いませんが、美味しい米作りのために、お盆過ぎには「日中は日差しがしっかり出て、夜の気温はぐっと冷え込む」という当地の気候の特徴が出て欲しいものです。昼も夜も暑いままだと、稲が過呼吸で疲れてまいってしまいます。秋の夜の涼やかさが、稲を休ませてお米にゆっくりとうま味養分を蓄えていくのですから。

## 「微生物農法」って何のこと？

水田の土の中には沢山の種類、膨大な数の微生物が活動しています。私たち人間のお腹では善玉菌と悪玉菌のバランスが崩れると体調が悪くなりますが、イネにとってのお腹を水田土壌、とらえたのが微生物農法です。水田の土も微生物のバランスを整えてやるのがとても重要で、そのバランスが崩れるとイネが病気にかかりやすくなったり、生長が上手くいかなかったりします。有機肥料や堆肥で微生物バランスを良好に保つことで、健康で自ら美味しくなる



7月中旬になると、いずれ顔を出す穂が、茎の中で形作られてきます。この時期の稲の茎を割ってみると、やわらかくて真っ白い小さな穂を見ることができます。このとき、すでにどのくらいのコメが生るのが決まっています。幼い穂を見ることが、肥料をかける時期とその量を決めるための重要な診断の指標になります。ただ、最近は省力化・肥料投入の簡素化の流れで、気にかける生産者も減ってきていますが。

## お得なサービス実施中。

ポイントシールをためて送ると必ずもらえるプレゼント!



お買い上げいただいた商品についてくるシールを集めて専用台紙に貼って送ると、お米などをめれなくプレゼント! お問い合わせは 0120-08-2028 まで

## TOPICS

日本テレビ出版

「3分クッキング」に、私たちのお米の広告を掲載しています。毎日の料理に役立つレシピ満載の雑誌です。是非ご覧下さい。

# 生産地から

今年で秋田わか杉国体が開催されます。ここ鹿角市では、卓球競技とラジボール卓球競技を9月末に予定しています。来年は地元で最も大きな廃鉱山、尾去沢鉱山が開山して1300年の節目の年ということで、観光キャンペーンが大々的に行われることに。ますます増えていく観光客の皆さんに、もっともっと当地の良い食材や温泉、自然や体験学習ができるメニューなどを知ってもらえるよう、頑張っていきたいと思えます。そこで今回は、来年開山して1300年を迎える「尾去沢鉱山」の観光坑道、マインランド尾去沢のなかなか見られない坑道内をご紹介します。



マインランド尾去沢観光坑道入口。この奥には総延長700kmにもおよぶ坑道が。坑道内は夏でも寒いので防寒の用意が必要かも。



1300年の採掘の歴史をもつ尾去沢（おさりざわ）鉱山跡。かつて世界有数の金鉱であり、現在は日本有数の巨大廃墟でもある。江戸中期には、ゴールドラッシュが半世紀以上も続いた。現在は坑道内を観光可能。



実はかつての世界一の鉱山地帯、秋田県鹿角地域。鉱山の魅力を凝縮した観光坑道。



こちらのホームページで鹿角地域の観光案内がご覧いただけます。

**(社)十和田八幡平観光物産協会**

<http://www.ink.or.jp/~kankou18/>

**たんぼ小町ちゃんとかづの三姫の鹿角探訪記**

<http://blog.livedoor.jp/kazuno2007/>



坑道は山の中を3km四方、高低差200mに渡り、鉱脈に沿って縦横無尽に走っている。



健康を気遣う意識の高まりから、近頃とみに農薬不使用とか「AS有機栽培」といった野菜が人気を博しています。もちろん、農薬をむやみやたらと使ったようなモノはちょっとおススメできません。が、「安全だから虫が食べた穴がある」といった話をよく聞きますが、生産現場から少し疑問が。それって管理しなれば、それは虫も病気もつくでしょう。むしろ害虫や病害に遭った作物は、自らを守るため毒性のある物質を体内で生成するという報告もあります。本当の安全や安心して何でしょうか？作る側も、食べる側も、ひとりひとりがじっくりと考えてみるべきではないでしょうか。



ぜひ一度  
かづの  
鹿角へ遊びに  
来てみて下さい！！

有限会社 安保金太郎商店  
かづの微生物農法研究会  
事務局

文・写真：安保 大輔

この「微生物農法研究会便り」のバックナンバーや、毎月発送などのご希望がありましたらご一報下さい。感想もお待ちしています。